

2007.1.7

Mabuhay! Philippines ようこそ フィリピン共和国へ

広島県海田町立海田中学校教諭
桜井 真

フィリピン共和国

正式名称はフィリピン共和国
(Republic of the Philippines)
7000を超える島がある
総面積は約30万km²
(北海道を除いた日本の面積とほぼ同じ)
人口は約8,300万人
公用語は英語とフィリピン語(タガログ語)
この他、各地に80種類以上の方言があるといわれている
気候は熱帯性気候
雨季(6月から10月)と乾季(11月から5月)
国民の83%がカトリック、その他のキリスト教10%
イスラム教は5%
日本からフィリピンの首都マニラまで飛行機で約4時間
フィリピンには日本との時差は1時間
(日本が正午なら、フィリピンは11時)

フィリピンの学校事情

フィリピンの義務教育
小学校6年間、高校4年間
小学校は6~12歳、高校は13~16歳の生徒が通っている。

しかし、家庭の事情で登校できない子どももたくさんいる。
一旦学校に来られなくなっても、いつでも復学することができるようになっている。
よって、小学1年生といっても様々な年齢の子どもたちが在籍している。

現状
識字率：92.2% (2000年調査)
1,000人 (小学1年入学生)
中退者312人 (多くが小学1、2年生時で中退)
通常修了者439人 (その他249人が平均9.6年で小学校を卒業)
1,000人 (高校1年入学生)
中退者389人
通常修了者248人 (その他353人が平均6.7年で高校を卒業)

フィリピンの学校生活は？

1日の流れ

7:30 登校
全校集会 (国旗掲揚・国歌斉唱)
7:50 午前の授業
11:30 昼休憩
(子どもたちは自宅に帰ってご飯を食べる)
13:00 午後の授業
16:00 下校
(全校集会をするところもある)

放課後 部活動はない
その代わりに、自分たちでグループを作り
ダンスやバスケット・セバタクローなど
をしている。



フィリピンの授業・クラスは？

授業
フィリピン語・英語
数学・理科・社会
芸術(音楽・体育・美術)が一緒になった教科
など

1日に6つ授業がある
教科によって授業時間が決まっている
例：数学60分、芸術80分など

クラス
「1クラス50人未満」政府が推奨
現在は1クラス60~80人で行われている
学校が多いのが現状である。

フィリピンでは、学力によってクラス分け
がされている。



教室は日本より少し狭い感じでしょうか。
生徒は机付きのイスに一人ずつ座っている。
教科書は学校に保管されていて、授業の時に貸出。
生徒たちは各自ノートを持参する。

フィリピンの学校設備

校舎・校庭
職員室
家庭科室・音楽室
コンピューター室
トイレ



フィリピンでの活動概要

SBTP(教員研修会)への参加
生徒対象のワークショップ開催
Math Challengeへの参加
ボンテペトラ小学校・高校への定期訪問
JOCV NEWSの発行
フィリピン通信「フィリピン共和国へMabuhay!」の発行
JICA-Netでの国際交流
カード交換の仲介

SBTP(教員研修会)

SBTPとは、フィリピンの小学校や高等学校の先生方が参加している研修会です。この研修会は、フィリピンの教育省によって1999年に始められた。

SBTP(教員研修会)とは・・・

- ・地区ごとに行われる教員研修会
- ・各地区ごと 月に1度開催
- ・各教科に分かれて模擬授業、検討会

SBTPの特徴

- ・すべての教員に研修参加の機会を与える
- ・少人数のグループで行う
- ・学校の授業を研修の場とする
- ・特別な経費を必要としない

SBTPの成果と課題

活動する中での困難

生徒対象のワークショップ(数学)

夏休みや授業の合間などの時間を使って、近郊の隊員と協力して生徒対象のワークショップを実施。

ワークショップの目的

- ・生徒に数学の楽しさを伝える
- ・教員対象セミナーの代替
- ・生徒と触れ合いたい!

実施内容

「タングラム」や「Four Fours」
「凹四角形の内角と外角の関係」
など



生徒対象のワークショップ(平和学習)

広島平和記念資料館からお借りしたビデオや原爆ポスターを使用して平和学習を行った。また、佐々木禎子さんの折り鶴への思いを伝え、生徒全員で折り鶴を折った。

広島出身者としての役割

ヒロシマ・原爆について

フィリピンの平和学習

「ミンダナオ島でのモロ民族解放戦線

とフィリピン軍との紛争」

第二次世界大戦での日本軍の侵略

子どもたちが書いたメッセージから
"Stop the war!" and "Never again"
Peace of the world.



ポンテベトラ学校への定期訪問

SBTP以外にポンテベトラ学校へ定期訪問をし通常の授業の様子や学校生活を見学

定期訪問の目的

- ・普段の授業とSBTPのデモレッションとの違いを知る
- ・生徒とのふれあい
- ・先生方との関係構築



JOCV NEWS



同じオフィスに配属の協力隊員とSBTPで訪れた学校の紹介、SBTPの様子、その他の活動(ワークショップなど)の紹介、SBTPに関する私達の考察などを記事にして月1回発行

目的

- ・活動の広報
- ・先生方との関係構築
- ・フィリピンでの上司への活動報告



フィリピン通信 「フィリピン共和国へMabuhay!」

広島県江田島市立大柿中学校の生徒へフィリピンの文化・生活習慣、自分の私生活などを紹介

発行の目的

生徒の国際理解へのきっかけ作り
活動報告(生存報告)

発行数

1年8ヶ月の間で1号~16号まで発行



JICA-Net国際交流

広島県立安古市高校とバタアンナショナル高校(バタアン州)とのJICA-Netを使用した国際交流

JICA-Net

バタアン州と日本との関係

カード交換(国際交流)

広島市立五日市南中学校とポンテベトラ高校(ネグロスオキシデンタル州)のカード交換による国際交流の仲介

英語によるコミュニケーション

協力隊員を活用

協力隊に参加して

現地での苦悩や喜び

- ・言語
- ・生活習慣・生活リズム
- ・治安

協力隊に参加して感じたこと

- ・外国語習得の必要性
- ・豊かさの本質について
- ・国際協力の実際
- ・国際人としての日本人のあり方
- ・日本の良さを再認識

学校現場への還元

教員・生徒への還元

- ・協力隊活動での経験の紹介
- ・現地情報の提供や紹介
- ・異文化理解・国際協力の授業
- ・フィリピンの学校の生徒達と手紙などを通して交流
- ・教材教具の提供・紹介

学校以外の教育活動において